

大桧沢から飯森沢

【日時】 2008年7月19日～21日

【メンバー】 L 鈴木、渡辺、野村、古野、坂井、高山

出発の週になってから、言い出しっぺの古野さんに海外出張の話。リーダーが急に変更になったが、出張は相手の都合で直前に中止となりメンバーに復帰。だが、リーダーはそのままで、「謀られた！」とはリーダーの弁。

集合場所では、長袖を忘れてきた野村さんが「それで、雨具も持ってきてないのか、山やにあるまじき…」などと言われている。変っていない、いつものバタバタに、久しぶりに山行を共にする私は、思わずほくそ笑んだ。

入渓点となる大峠トンネル手前の駐車場には、立派な案内板がある。登山道だけでなく沢登りのルートまで載っている、

「キャンプ場」、「風呂屋横丁」、「マヨネーズ沢」等々。なんだか緊張感がそがれる。



沢にほぼ平行して立派な登山道があって、釣人を見つけるたびに、逃げ込む。かたや沢筋には、あちこちの岩に赤ペンキがつけられていて、どちらがいいんだか、「楽しみが半減だあ」と古野さんのぼやき声が聞こえる。初日のルートに難しいところはなく、のんびりムード。それでも、鈴木さんは、坂井さんにそこ

こで課題を与えて、新人訓練に励んでいた。高度をあげていくと、中央部が融けた雪渓が現われ、ついには大滝（黒滝）に出くわして、その手前で初日は幕となった。

本日の食当は坂井さん。出発前からとまの胃袋具合を随分心配していたが、つまみをたらふく食べても、用意されたキーマカレーは綺麗になくなった。



やや遅めの起床。朝一番の黒滝は左を巻き、雪渓は次郎さんが先頭で下を潜る。ブリッジから出たところの岩場に人がたまってしまおうが、トップの次郎さんのお助けを借りて後続は無事クリアした。次なる難所は、左岸の高巻き。上から頑丈な鎖と虎ロープが下がっている。しかし、最後に使

http://www.tomanokaze.dojin.com/

ったのはいつだろう、ロープ上には石が積もっていて、「注意してね」という古野さんに返事はしたものの、実際返事の数秒後に角の鋭い落石があるに至っては、落石ルートが外れてくれた幸運に感謝するしかなかった。

通称「キャンプ場」の二俣の右股から梅峰を目指す。つめの藪はさほどでもなく、労せ



通称二俣の台地上のキャンプ場

ずして登山道へ出て、梅峰山頂にたどり着いた。小休止の後、ザックデポ地点まで戻って、飯森山へと南下開始。しかし、気づけばコンパスは北を指すようになっている。引き返すと梅峰山頂で会った

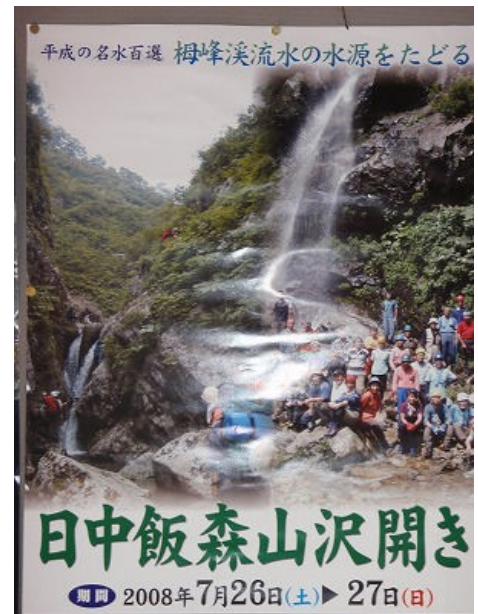
登山客とすれ違い、訊けば（古い2万5千図にはでていない）小屋方面に降りるといふ。飯盛山への縦走路は廃道と聞いているとも…。その後飯森山へのルートの痕跡を見つけて、偵察に出かけるも、時間が読めないと判断、再び大桧沢に降りて水のある天場を確保することになった。

キャンプ場の二股を今度は左俣へ。昨晚以上に天場の確保は厳しい。それでも奥行きのない天場と焚火場を、離れてそれぞれ確保し、何とかタープを張って落ち着いたところで、雨が降ってきた。

4時起床。ここからのルートは特段難しいところはない。相変わらず赤ペンキもあって、稜線にでるや刈りばらいされた道がしっかり飯森山まで伸びている。しかし、反対の梅峰方面の道はこちら側からも消えており、もう2つの峰をつなぐ考えはないようだ。下降した飯森沢は全く何もなく、おかげで昼前には入渓点に戻れた。再び眺める看板には、梅峰と飯森山とはやはり結ばれていなかった。（「正しいでも親切ついでに廃道って書いてくれてもいいじゃない」などと思う自分を反省するのでした。）

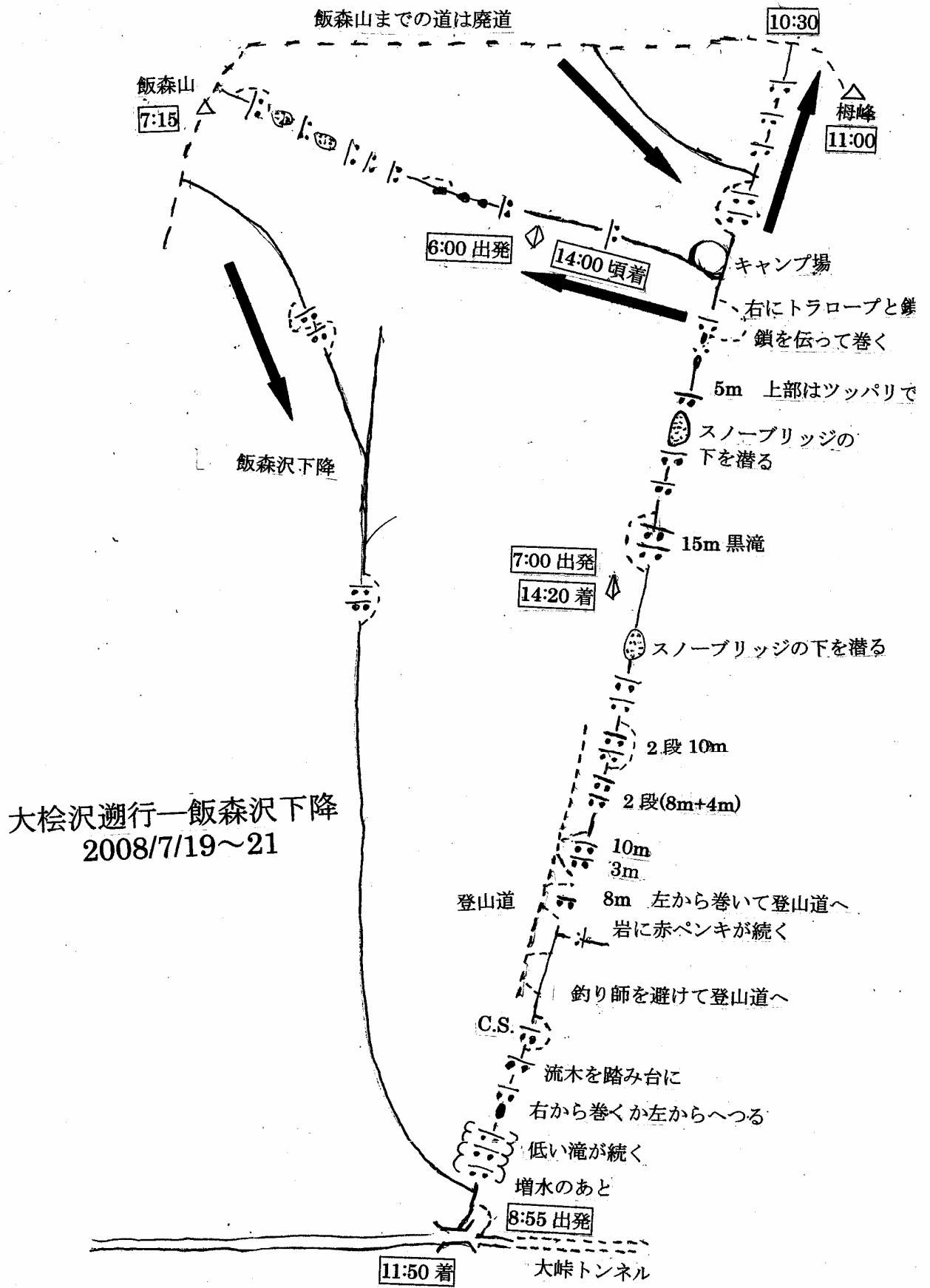
- 【行程】 7/19 大峠トンネル(8:55)～C1(14:20)
 7/20 C1(7:00)～梅峰(10:30)～C2(14:00)
 7/21 C2(6:00)～飯森山(7:15)～大峠トンネル(11:50)

【地図】 飯森山



次週の公募ポスター

30人以上になることもあるらしい。



大桧沢遡行—飯森沢下降
2008/7/19~21